

《第5期 臨床仏教師養成プログラム》

# 臨床仏教 公開講座

## 講座スケジュール

第4講 12/12 (水) 18:00~19:30

### 憲法・原発・平和

— 煩悩具足の愚かさ —

**内容** 戦争ができる国を目指す憲法改定や、安全性が担保されないままの原発再稼働への動きが、暗黙裡に進められている。煩悩具足の愚かな身として、仏教者はどのように心と社会の平和を目指すべきか。

**講師** 山崎龍明 (武蔵野大学名誉教授・WCRP平和研究所所長)

第8講 2/13 (水) 18:00~19:30

### オウム真理教と仏教

— 今、仏教者に求められること —

**内容** 13人のオウム真理教元幹部の死刑が執行された。しかしながら、未だに若者たちはオウム真理教の後継団体に入信している。「風景に過ぎない」と評された寺院や仏教者に、今、求められることとは？

**講師** 島園 進 (上智大学グリーンケア研究所所長)

第1講 10/24 (水) 18:00~19:30

### “宗教”と“医療”のはざま

— 家族の看取りから学んだもの —

**内容** 死を目前に、不安や恐怖を抱き戸惑う患者や家族。そして医師として感じた無力感と、僧侶として患者に向き合う決意——。家族の看取りを経験する中で得た僧医としての気づきと実践とは。

**講師** 田中貞雅 (医療法人普門院診療所・僧医)

第5講 12/26 (水) 18:00~19:30

### 災害支援と足湯活動

— 被災者の足を洗うことの意味 —

**内容** 光明皇后以来、千年の時を超えてつながる足湯は菩薩の慈悲行でもある。能登、宮城、熊本などの被災地で足湯傾聴ボランティアを継続してきた活動者が、今、仏教者・仏教界に問いかけることとは。

**講師** 辻 雅榮 (高野山足湯隊)

第9講 2/27 (水) 18:00~19:30

### 仏教の社会貢献

— エンゲイジド・ブディズムを礎として —

**内容** 貧困、差別、自死、そして度重なる自然災害……社会のなかで苦しむ人びとに対し、仏教者はどのように接し支援していったらいいのか。国内外のエンゲイジド・ブディズムの実践を礎として考える。

**講師** 蓑輪顕量 (東京大学大学院教授)

第2講 11/14 (水) 18:00~19:30

### 路上生活者支援と子どもの貧困

— 仏教的な支縁のあり方 —

**内容** 格差社会が顕著になりつつある現代。高度成長期を支えてきた高齢者が路上で生活を、子どもたちは貧困状態の中で孤食を余儀なくされている。地域社会の中で当事者を支える術を提示する。

**講師** 吉水岳彦 (社会慈業委員会ひとさじの会)

第6講 1/9 (水) 18:00~19:30

### 寄り添う看護ケア

— 患者さんやご家族に求められる真のケアとは? —

**内容** 「看護師」「教員」そして「患者」としてみつめた臨床の現場。生病老死を目の当たりにする中で感じた問い。仏教者として、真に「寄り添う」ことの意味とは？いくつかの事例をもとに考察する。

**講師** 藤澤雅子 (淑徳大学短期大学部教授)

第10講 3/13 (水) 18:00~19:30

### 子どもの ところに寄り添う

— チャイルドラインから見える子どもたちの諸相 —

**内容** 虐待、不登校、いじめ、自死……子どもたちを巡る社会環境はこれまでにない厳しい。お寺の敷居が高いといわれる今日、僧侶や寺院は子どもたちの悩みや苦しみにどのように応えることができるのか。

**講師** 神 仁 (臨床仏教研究所・東京慈恵会医科大学)

第3講 11/28 (水) 18:00~19:30

### 地域社会での看取りと支援

— 専門職連携のあり方 —

**内容** 多死社会の到来と医療制度の転換の中でターミナル期を迎えた方々は病院から地域社会へ。地域包括ケアシステムを踏まえながら、医療者や介護士、僧侶等の専門職連携による看取りを考える。

**講師** 楠 恭信 (臨床仏教師・福島県立医科大学会津医療センター)

第7講 1/23 (水) 18:00~19:30

### 全人的な医療とは

— チームケアについて考える —

**内容** WHOが目指す全人的医療。それは慈恵医大の創設者高木兼寛が目指してきた「病気を診ずして病人を診よ」に通じる。緩和医療の現場からチームケアの実践による全人的な医療のあり方を提示する。

**講師** 下山直人 (東京慈恵会医科大学緩和ケア診療部長)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

## 人びとの「いのち」に 寄り添うために